

令和 8 年第 3 回定例会 一般質問一覧表

受付順	一般質問提出 議員氏名	質問事項	質問の要旨	答弁者
1	河内 克也	法定外目的税 「宿泊税」導入について	新しい宿泊施設のオープンが続いており、私は、本村の目指す通過型から滞在型観光地へ転換途中だと感じている。 今、将来に向け宿泊税導入の議論を始め、検討をスタートする時(とき)だと考える。 太田村長に、村の現状、国内・県内自治体の動き、宿泊税導入(財源確保、税収の使い道、検討方法等全般)に対する考え方をお聞きする。	村 長
		策定された 「村文化財保存活用 地域計画」に則った 推進策について	本年は、「南阿蘇村文化財保存活用地域計画」の運用期間 2 年目となっている。計画に示されている 3 つ方向性の具体的な取り組みについて伺う。 ① 守りつなげる＝景観や文化財の調査法、保存法 村の偉人にスポットライト(注目)を！ ② 活かしひろげる＝歴史民俗資料館維持管理・整備 ③ 共にかかわる＝村民や関係者との連携	教育長

令和 8 年第 3 回定例会 一般質問一覧表

受付順	一般質問提出 議員氏名	質問事項	質問の要旨	答弁者
2	市原 恵一	ふるさと納税(ふるさと 応援基金) 今後の取り組みにつ いて	① ふるさと納税の現状(実績)は ② 今後の戦略は？ 村の主要返礼品の米・水・あか牛等の取り組みは、どのように考えておられるか ふるさと応援基金 令和 7 年度分 ③ これまでに何に活用されたのか ④ 今後どのように活用していくのか ⑤ 村民の暮らしの向上にどう還元していくのか 物価高がつづいている中で、再度現金・商品券等としての還元を考えておられるか	村 長
3	古澤 博之	令和 8 年熊本地震の 教訓から「みなし避難 所」の広域避難を 視野に見据えた、即 時受け入れ体制の構 築と「南阿蘇モデ ル」条例の制定につ いて	本村は大小様々な宿泊施設を有する強みがあり、村内住民のみならず他自治体からの被災者受け入れの拠点としても大きな役割が期待される。法適用を待たずに村の独自判断で「みなし避難所」の運用を可能とする条例の構築について村の見解を伺う。 ① 8 月に行われた「南阿蘇村被災者リフレッシュ宿泊支援事業」の申込件数、宿泊者数の実績を伺いたい。 ② 定時から村内宿泊施設と協定を結び、国の法適用を待たずに発災直後に即時発動できる村独自の条例を制定する考えはあるか。 ③ セーフティネットの観点からも被災者を幅広く受け入れることで、心も体も癒して頂くと同時に、地域経済を循環させ風評被害から守る対策になると考えるが村の見解を問う。	村 長

令和 8 年第 3 回定例会 一般質問一覧表

受付順	一般質問提出 議員氏名	質問事項	質問の要旨	答弁者
4	丸野 隆大	令和 8 年熊本地震および阿蘇中岳第一火口の噴火警戒レベル上昇による観光業への影響と対策	令和 8 年 7 月 28 日の熊本地震、そして令和 8 年 8 月 14 日の阿蘇中岳第一火口の噴火警戒レベル上昇。どちらも本村において直接的な被害は少なかったものの、風評被害のような形で観光業に大きな悪影響を与えている。 この件について村が把握している『本村観光業への影響』と、『観光業に対する村の補助や観光客向けの情報発信、今後実施されると予想される県・国の補助事業に対する準備体制などの対策』を問う。	村 長
		買い物支援事業への集落支援員制度活用	長野県飯山市では集落支援員制度を活用して「高齢者等の買い物支援を目的とした移動販売および見守りなどの集落点検」を委嘱している。 本村では買い物支援事業に対して補助金を出し、買い物支援事業を始める土台作りが行われた。しかし、移動スーパーや自宅へスーパー商品を届けるなどの買い物支援事業は採算性が低く継続性や手厚いサービスに不安が残る。 集落支援員制度を活用して、村への財政負担を抑えながら高齢者等の見守りも兼ねた買い物支援事業の運用が検討可能か問う。	村 長

令和 8 年第 3 回定例会 一般質問一覧表

受付順	一般質問提出 議員氏名	質問事項	質問の要旨	答弁者
5	坂田 正也	買い物弱者ゼロへ スーパー誘致の現状 を問う。	村長は、スーパー誘致活動は続けると言われる。 公設民営のスーパーを新設して生活拠点の整備をやりましょう。 現在の状況と今後の積極的な対応をたずねる。	村 長
6	工藤 眞巳	令和 8 年熊本地震を 踏まえた情報発信の あり方および防災・ 危機管理体制の強化 について	① 風評被害を防ぐ「安心情報」の迅速な発信について ② 災害対応の検証と各種防災マニュアルの再改定について ③ 防災・危機管理組織の強化(危機管理室等の設置)について	村 長

令和 8 年第 3 回定例会 一般質問一覧表

受付順	一般質問提出 議員氏名	質問事項	質問の要旨	答弁者
7	山本 涼子	景観維持における光害の悪影響について	本村の夜空は、広大なカルデラと澄んだ空気に恵まれた九州屈指の星空スポットであり、貴重な地域資源である。しかし近年、相次ぐ宿泊施設の開業に伴い、星空を明るく照らす照明が散見され、住民からの苦情の声が聞かれる。また安全対策で普及が進む街灯の LED 化についても、光の漏れや眩しさといった新たな課題が浮上している。 そこで、九州屈指の星空景観を守り、環境保全と地域発展を両立させるために、村として「光害」対策に今後どのような方針で臨むのか考えを問う。	村 長